



➔ 6月12日(火) “Basic Presentation Skills 2018 ”

昨年に引き続き、G10 ボストン・ニューヨーク研修派遣候補生を対象に、本校の JET、Lauren Scarratt 先生による講義が行われた。Presentation において大事な skill とは何か、について実例を挙げながら丁寧に講義をいただいた。Presentation というと、流暢に英語を駆使し、自分の主張を単に順序良く明らかにしていくものと誤解されることがあるが、海外の発表の場における Presentation というのはそういったものではない。ケンブリッジ大学で研究歴をもつ同氏の講演は、非常に説得力のあるものであった。

現在、1年生はまさに「コミュニケーション英語 I」の授業でプレゼンテーションを行っているので、今回の講演内容はとても参考になるはずである。

まずはリサーチの重要性という大原則から話が始まった。説得力のあるプレゼンテーションはリサーチが十分に行えたか、に大きく左右される。リサーチの手始めとして、インターネットの活用は有効な手立ての一つである。検索をするとまずヒットするのが Wikipedia であるが、その活用法には注意が必要であるとのことだ。あくまでも一般の人が書いているもので、信用性は不透明な部分がある。したがって情報のソースとして Wikipedia をあげることは避けるべきである。ローレン先生によれば、最も効果的な活用法は、その情報から関連する用語や事象などを見つけることだそうだ。それによってリサーチの幅が広がってくる。また、貼られているリンクを辿ることによって、原典としての書籍や、権威のある調査結果などを見つけることができ、そういったものは情報ソースとして信頼される。言わば Wikipedia はポータルサイト的に活用することで利用価値が高まるとのことだ。

次にパワーポイントの活用方法である。パワーポイントには、あまり多くの情報を示しすぎないことが大事であるとのことだ。必要なもの以外は乗せないというのが大原則である。パワーポイントにはいろいろな機能があり、作り込んでしまう傾向があるが、Less is more. であり、分かりやすさという観点を忘れてはいけない。この点について、“Rule of 3”という表現で、お話をいただいた。これについては、ローレン先生に直接書いていただいたので、下記を参照してもらいたい。とても参考になります。

また、Presentation をする前には、Audience が「どんな対象なのか」、「何を知っているのか」、「何を求めているのか」等をしっかり考えなければいけないということを強調された。やみくもに提言を示すだけでは不十分だということである。また、資料の見つけ方、議論の順序、話している最中に留意すべき点等を教えていただいた。”Involve the audience.” というフレーズが特に印象的であり、Presentation は個人の 単独作業ではなく、Audience との協働作業であることに生徒たちは改めて気づかされたようである。

☆ Rule of 3

日比谷生必読です!

The rule of three is a writing principle, which suggests that three events, characters, ideas etc are more effective at engaging the audience and telling a story. This is because three is usually the smallest number possible to make a pattern, so it helps audiences to remember and understand events. The rule of three is used everywhere- in stories (the three little pigs, the three musketeers), in slogans and catchphrases (“Stop, Look and Listen”- a road safety campaign, “Liberte, Egalite, Fraternite”- the motto of the French Republic, “Faster, Stronger, Higher”- Olympic motto) and in speeches (“veni, vidi, vici”- Julius Caesar, “Government of the people, by the people, for the people”-Gettysburg address). In fact, three is such a magic number that many speeches or slogans that used more than 3 points are often misremembered as just three (“blood, toil, tears and sweat” referenced by Winston Churchill are usually remembered as just “blood, sweat and tears”). Next time you’re making a presentation or writing a speech in English remember the rule of 3- when you’re giving examples, reasons or making a powerful statement, two is too few and four is too many. Three is the magic number.

▶ 国際地理オリンピックへ！！

～第 15 回国際地理オリンピックへ日本代表として出場 (iGeo Quebec City, Canada 2018) ～

7 月 31 日～8 月 6 日にカナダ・ケベックで開催される第 15 回国際地理オリンピック (iGeo Quebec City, Canada 2018) へ出場することになりました！昨年 12 月からの 3 度にわたる予選を勝ち抜き、世界大会への切符を手に入れました。

この国際地理オリンピックには日本を含む世界 40 数か国・地域から 160 名近くの高校生が出場し、知識・概念、思考・判断、技能・表現などの地理的能力を互いに競い合います。出題も解答も英語で行われるので、英語力も不可欠なものになります。

日本代表としての出場ということで、日比谷高校にとっても大変名誉なことです。健闘を祈りましょう。

メッセージ

今回、このような機会を得ることができて、嬉しく思っています。言葉や文化の違いに対する不安もありますが、各国の地理好き高校生と共に過ごす 1 週間はとても楽しみです。日比谷の授業や G10 等で吸収した学びをもとに、悔いのない様、万全の準備を行って大会に臨みます。目指すは金メダル！応援よろしくお願ひします。

▶ 7 月 3 日 (火) 内閣官房主催 「国家公務員の出身高等学校への派遣」

～「いまを守り未来をつくる」 国家公務員 仕事紹介～

内閣人事局は、各府省と連携し、各府省の若手国家公務員を出身高等学校（母校）に派遣する事業を平成 28 年度より行っています。当該高等学校の OB・OG というより身近な視点から講演を行うことを通じ、将来を担う高校生の学習意欲の喚起、キャリア形成及び国家公務員の仕事への理解促進を図ることを目的としています。

今回は、本校を平成 20 年度に卒業された多田初様に御講演をいただきます。国家公務員として活躍されている OB の方にお話を聞けることは、進路を幅広く考えるうえでも大変貴重な機会です。積極的に参加してください。

申し込みは、LL 準備室の前に申し込み票がありますので、ルーム名と名前を記入してください。締め切りは 6 月 29 日です。

【講演内容】

日比谷高校での思い出

- ・国家公務員を志望したきっかけ
- ・現在の仕事内容と魅力
- ・国家公務員になることを目指している生徒は、具体的に高校からどのような進路を描くべきか。

多田 初 様

【プロフィール】